

つながる、ひろがる
まる博ものがたり

鹿沼まると博物館の活動や、鹿沼の自然や歴史・文化にまつわるホットな話題を紹介します。

第18回

水戸の殿様、鹿沼を詠む

上の写真は、今から181年前、日光に向かう途中の水戸藩主徳川斉昭が鹿沼宿の本陣の小櫓に書いた歌です。

鹿沼にてよめる (真菰) まこも草 (茨) さはに生たる (隠れ沼) かくれぬま
鹿よりほかに (訪う人) とふひともなし

此処の産なりとて宿の主より麻を贈けれハ 誰もしれ (麻) あさよりもまた (民草) たみくさは 直きこゝろに (心) おふへき物と (生うべき)

一首目は「鹿沼」の地名について。斉昭は鹿沼に到着した直後、「なぜ鹿沼というのか？」とお供を通じて聞きました。聞かれた人は「城の辺りの沼から鹿が出たからと俗に言います。沼の跡はありますが、草が茂つてよく見えません。」と答えました。そのため、少し寂しい歌になっています。

二首目は献上された麻にちなんで、真つすぐ成長する麻と素直な民の様子をかけて称賛します。

実はこの書、長く行方不明で昨年の調査で再発見されました。9年前の企画展では、専用の葵の紋が付いた桐箱だけを展示しました。今年の第10回企画展「Re-Creates」では、この書のような新たに見つかった文化財や、これまでの企画展で反響が大きかった展示品が一堂に会します。どうぞご期待ください。

文化課主任 堀野 周平

まると博物館
からのお知らせ

- ①自然はともだち展
とき 7月21日(土)～8月4日(日)
※詳しくは20ページのお知らせをご覧ください。
- ②第10回企画展「Re-Creates」
とき 12月7日(土)～22日(日)